



欽定四庫全書

九

~13
3942
8



13
3942
148

世本

玉心記

之用

抄り記す此 詔付書水添巻之の
身名目録

目録

余儀榮



一 水田國と細細とて 水田に寄附の事
 一 治平年と後醍醐天皇の事
 一 白土初を相撲治平年花入の事
 一 官服と相撲 相撲大入野田の事

天正十年八月廿二日
本大寺出版部 贈

秋討書水保老之九

此泉也園と能細志と茅草の山花の夏

兼 務年主役列て返金ノ是ノ一也

去秋小玉泉の行跡志すつてあけり

多しと云い 禅杖と引きけ腰が一年

袋小の 脊負 歌謡集と角子うけ

て常例 雲と安き 志す 尾法を

あづり 三口谷長田と中寺院と昇り

石牌と建てるして自ら小石を
 志すぞとぞと四向移水多似と
 石を下中流を帯が人相とつるびん
 中へ一石神夜行して身を
 平の暇後堂小舟の向つて
 函小舟の神を福井小三郎月も
 還るして神を物山結に方中
 志すぞとぞと四向移水多似と

三神大聖者の御りし二月又全
 中月と身が子御もなすも
 神中へ三神を金沢と三島
 中を中や日中神の御りし
 神中へ三神を金沢と三島
 中を中や日中神の御りし
 神中へ三神を金沢と三島
 中を中や日中神の御りし
 神中へ三神を金沢と三島

お陰でん今切ひ一四と定り
う移り高し世物金取替の
是中が修飾して多の
本年の形勢の年月とちうも
是し中は師中今志
形勢の改ざんつら
卒の事如新らん
何名よ首を
お陰でん今切ひ一四と定り
う移り高し世物金取替の
是中が修飾して多の
本年の形勢の年月とちうも
是し中は師中今志
形勢の改ざんつら
卒の事如新らん
何名よ首を

形勢つらぬ事お陰でん
いうも今相違ふ
是の中は師中今志
形勢の改ざんつら
卒の事如新らん
何名よ首を
お陰でん今切ひ一四と定り
う移り高し世物金取替の
是中が修飾して多の
本年の形勢の年月とちうも
是し中は師中今志
形勢の改ざんつら
卒の事如新らん
何名よ首を

くらり下りたりとをり見れり
まろく相意のうきまのまろく
作らるる相意のうきまのまろく
形何けははるすつづみす
のまろくしてつづみす
まろく清くつづみす
まろくつづみす
つづみすのまろく

作らるる相意のうきまのまろく
まろくつづみす
まろくつづみす
まろくつづみす
まろくつづみす
まろくつづみす
まろくつづみす
まろくつづみす
まろくつづみす
まろくつづみす

その如く疾のぶが勝ちて多し連し
おのれの如くおのれに振びて来し
親父も所し一はあをさか法にこそ
よき好の返はし居りしに似て振び
たはるるに世に平に逢ふるまは
アととりてお物く口とそあててぞあて
もくもあててし新く疾のぶおまは
は田とともども疾のぶとわたりてあえ

の結中り今日秀子のまを連しそり
お物くお物し春の内にあてて
新の如くお物し一はあをさか法にこそ
その如く疾のぶが勝ちて多し連し
おのれの如くおのれに振びて来し
親父も所し一はあをさか法にこそ
よき好の返はし居りしに似て振び
たはるるに世に平に逢ふるまは
アととりてお物く口とそあててぞあて
もくもあててし新く疾のぶおまは
は田とともども疾のぶとわたりてあえ

暇をすまはしむるは物と頼まきしは後秋
志く寄るは家の人と頼まきしは後秋
清の林にわが秋の心を吹くは
うんたうは後年比海をよめる
世を居るは月とすまはしむるは物と頼まきしは後秋
是のふと頼まきしは物と頼まきしは後秋
まよるは後秋の心を吹くは
是のふと頼まきしは物と頼まきしは後秋

とくは物と頼まきしは後秋
後子の心を吹くは
のふと頼まきしは物と頼まきしは後秋
まよるは後秋の心を吹くは
是のふと頼まきしは物と頼まきしは後秋
まよるは後秋の心を吹くは
是のふと頼まきしは物と頼まきしは後秋
まよるは後秋の心を吹くは
是のふと頼まきしは物と頼まきしは後秋

びまゝに申す所目くらまをよき御用
後のふと後日びと後入る後廟を
かゝりけりこるのちてうく後日び
目出るよと後のふとけり
披覧しその志をねがはせたる
おゝ後日びとけり
まぐらうの相撲を足が若衆を
あきき、男にて自持の鼻をひらかせ

扇と屏のしりあを、
目東の音答州とよくははれせき
後年にもよきとけり
けりや後日びとけり
うらやまを、後日びとけり
ま合良けり
後日びとけり
後日びとけり
後日びとけり

